

湘南西部地域における脳卒中地域連携クリティカルパス普及の取組みと今後の対応について

1 経過

平成 19 年	10 月	中央社会保険医療協議会診療報酬基本問題小委員会により、診療報酬の「地域連携診療計画管理料」の対象疾患として、平成 20 年 4 月から新たに「脳卒中」を追加すべきことが答申された。
	12 月	東海大学医学部付属病院と七沢リハビリテーション病院脳血管センターが神奈川県西部における「脳卒中地域連携クリティカルパス」の作成を提案し、平成 20 年 1 月に「神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会」を立ち上げ、「神奈川県西部脳卒中地域連携パス」の作成、利用・普及に取り組む。
平成 20 年	4 月	第 5 次神奈川県保健医療計画開始（H20～H24 年度） 疾病別の医療連携体制の構築のため、がん、脳卒中及び糖尿病について、地域連携クリティカルパスを活用した医療機関等の連携の推進を掲げ、その普及に取り組むこととした。
	7 月	湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会設置 湘南西部二次保健医療圏をモデル医療圏として脳卒中にかかる「地域連携クリティカルパス」の導入を検討するため設置された。
平成 21 年	7 月	湘南西部地区地域連携クリティカルパス（試行版）の制定 「神奈川県西部脳卒中地域連携パス」を土台として「脳卒中地域連携パス」を作成することとし、検討委員会、同ワーキンググループで検討を重ね作成した。
平成 22 年	9 月	湘南西部地区地域連携クリティカルパス（試行版）が「神奈川県モデルパス」となる （平成 22 年 9 月 30 日付け神奈川県保健福祉局医療課長通知）
	}	湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会、同ワーキンググループにおいて普及等について検討を継続

2 湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会及びワーキンググループの設置

(1) 背景

神奈川県保健医療計画（第 5 次 H20～H24 年度）において、「脳卒中」「心筋梗塞」「糖尿病」について、平成 24 年度までにすべての二次医療圏に「地域連携クリティカルパス」（以下「パス」という。）を導入することされた。これを受け、保健医療圏でモデル的に 3 疾患のパス導入を検討し、その結果を踏まえて他の地域で展開することとされ、当湘南西部地域においては、脳卒中のモデル地域として、パスの導入・普及を図っていくこととされた。

パスの導入・普及に向けた検討体制として、地域の医師会、急性期病院、回復期病院等をメンバーとした「湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会」（以下「検討委員会」という。）を設置するとともに、具体的なパスの検討・作成については、検討委員会の下にワーキンググループを設置し、取り組むこととした。

(2) 設置年月日、設置目的、所掌事務、構成員

ア 湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会

設置年月日 平成 20 年 7 月 1 日

設置目的 湘南西部地区における疾病別に病態・病期ごとの保健・医療・福祉関係者等の役割分担やサービスの連携内容を定めた「パス」を検討するため設置

所掌事務 パスの検討、普及・啓発及び評価、地域関係者の共通認識の形成に向けた関係団体、機関等との連絡調整等

構成員 地域の医師会、急性期病院、回復期病院
(平塚市医師会、秦野伊勢原医師会、中郡医師会、平塚市民病院、平塚共済病院、国立病院機構神奈川病院、秦野赤十字病院、東海大学医学部付属病院、伊勢原協同病院、七沢リハビリテーション病院脳血管センター)

イ 湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会ワーキンググループ

設置年月日 平成 20 年 8 月 7 日

設置目的 具体的検討事項（パス案の作成・検討等）を進めるため設置

所掌事務 ・設置時 医療機関連携の状況、パスの運用状況の把握、モデルパス案の作成・施行の検証・改善検討 等
・H24 年度～ 医療機関連携の状況、パスの運用状況の把握・検証、パスの普及、ICT 化に係る課題検討

構成員 ・設置時 地域の医師会、急性期病院及び回復期病院の実践者
・H24 年度からは地域包括支援センター、居宅介護支援事業所及び介護老人保健施設が追加

(3) 開催状況

ア 湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会

年度	月日	検討委員会 内容	出席者数	会場
20	7月1日	・地域連携クリティカルパスの導入について ・意見交換 ・ワーキンググループの設置について ・今後のスケジュールについて	10	平塚保健福祉事務所
	12月4日	・地域連携クリティカルパスの検討状況について ・意見交換	5	平塚保健福祉事務所
21	7月2日	・地域連携クリティカルパスの検討状況について ・地域連携クリティカルパスに係る維持期施設からの意見聴取結果について ・地域連携クリティカルパス(案)について	10	平塚保健福祉事務所
22	7月8日	・湘南西部地区地域連携クリティカルパス【試行版】の検討経過及び現時点における普及状況について ・維持期医療・介護施設との連携のための具体的対応	12	平塚保健福祉事務所
24	6月14日	・医療と介護に向けた動きについて ・ICT化に向けた取組みについて ・医療・介護への普及に向けた今後の対応について	8	平塚保健福祉事務所
25	9月5日	・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・維持期医療機関・介護施設への運用拡大に向けた動きについて	7	平塚保健福祉事務所
26	10月21日	・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・維持期医療機関・介護施設へのクリティカルパスの運用拡大について	8	平塚保健福祉事務所
27	1月28日	・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・維持期医療機関・介護施設へのクリティカルパスの運用拡大にかかる平塚保健福祉事務所の取組みについて	7	平塚保健福祉事務所
28	2月2日	・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・同クリティカルパスの普及に向けた取組みについて ・湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会等での取組みの総括について		平塚保健福祉事務所

イ 湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会ワーキンググループ

年度	月日	ワーキンググループ 内容	出席者数	会場
20	8月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携クリティカルパスの導入について ・第1回検討委員会の論点について ・神奈川西部脳卒中地域連携パスの紹介 ・今後のスケジュールについて 	13	秦野保健福祉事務所
	9月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回ワーキンググループ検討会の論点について ・今後の進め方について 	10	秦野保健福祉事務所
	10月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・バス素案（七沢リハ作成）について ・意見交換 	15	秦野保健福祉事務所
	1月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携パス（案）について ・アンケートの実施について 	15	秦野保健福祉事務所
21	4月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南西部地区地域連携クリティカルパスに係る維持期施設の意見聴取結果について ・意見交換 	10	秦野保健福祉事務所
	2月25日	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南西部地区地域連携クリティカルパス【試行版】の普及状況について ・横須賀市医師会策定のクリティカルパスの紹介 ・湘南西部地区地域連携クリティカルパス【試行版】の普及啓発方法について ・「脳卒中治療の現状と課題(仮称)」講演会について 	11	秦野保健福祉事務所
22	10月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・維持期医療機関・介護施設等へのパスの運用拡大に向けた方策等について 	22	秦野保健福祉事務所
23	12月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携状況について ・医療と介護の連携拡大に向けた方策について 	21	秦野保健福祉事務所
	3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス事業者との連携について ・介護施設への普及方策 	22	平塚保健福祉事務所
24	7月19日 (サブワーキング)	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携パスITシステムについて ・脳卒中地域連携パスICT化に向けた方策について 	6	平塚保健福祉事務所
	12月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスの現状 計画管理病院における実態 ・介護への普及のための課題と解決方策について 	18	平塚保健福祉事務所
	3月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及の取り組み ・クリティカルパス運用の検証について 	13	平塚保健福祉事務所
25	11月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスによる連携強化に向けた方策 ・維持期医療機関・介護施設等へのパスの運用拡大について 	13	平塚保健福祉事務所
26	12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・維持期医療機関・介護施設へのクリティカルパスの運用拡大について 	14	平塚保健福祉事務所
27	3月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・維持期医療機関・介護施設へのクリティカルパスの運用拡大にかかる平塚保健福祉事務所の取り組みについて 	13	平塚保健福祉事務所
28	11月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・脳卒中地域連携クリティカルパスの普及状況について ・湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会等での取り組みの総括について 	13	平塚保健福祉事務所

(4) 取組状況

ア 県内パス様式の統一に向けた取組み

パス作成に当たっては、「神奈川県西部脳卒中地域連携パス」（神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会が作成）を土台として、検討委員会、同ワーキンググループで検討を重ね、平成21年7月に「湘南西部地区地域連携クリティカルパス（試行版）」を制定し、平成22年9月、当該パスが「神奈川県モデルパス」の1つとして普及の拡大を図っていくこととされ（平成

22年9月30日付け神奈川県保健福祉局医療課長通知)、県内統一様式となった。

イ パスの運用状況の把握

湘南西部地域における医療機関連携やパスの運用状況を把握・検証するため、アンケートを実施した。

○対象：計画管理病院（湘南西部地域4病院）、回復期病院（湘南西部地域6病院）

○実施時期：毎年8～9月

ウ 維持期への拡大に向けた取組み

パスの普及に当たり、急性期病院と回復期機関との間については、ある程度の連携が図られているが、回復期機関と維持期機関との連携や介護サービス事業施設への普及（医療・介護連携）が進んでいないことから、ワーキンググループを改組し新たに介護関係者を加えるとともに、リーフレット作成やホームページによる普及啓発に取り組んだ。

(ア) ワーキンググループの改組（H24年度）

平成20年度設置時の構成員に加え、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所及び老人保健施設を加え、維持期等各施設へのパスの普及を新たな所掌事項として加えた。

(イ) 維持期機関向けの協力要請、参加案内の作成（H24年度～）

神奈川県西部脳卒中地域連携ネットワークへの参加を促す為、維持期機関向けの参加案内を作成し、回復期機関及び医師会に配布依頼を行った。

(ロ) 普及リーフレットの作成（H26年度）

脳卒中治療における病診連携の重要性を周知する為、リーフレットを作成し、医師会及び連携ネットワークに加入している機関に対し送付した。（平成27年3月10,000部作成）

(ハ) ホームページによる普及啓発

平塚保健福祉事務所ホームページにおいて制度の紹介等を行った。

3 参加機関、パス発行数等の状況

(1) 参加機関の推移（神奈川県西部脳卒中地域連携懇話会）（表1、図1）

ア 回復期機関 13施設（H23）→ 18施設（H28）

イ 維持期機関 103施設（H23）→ 126施設（H28）

（うち介護施設 0施設（H23）→ 12施設（H28））

(2) パス発行数、利用率の推移（表2、図2、3）

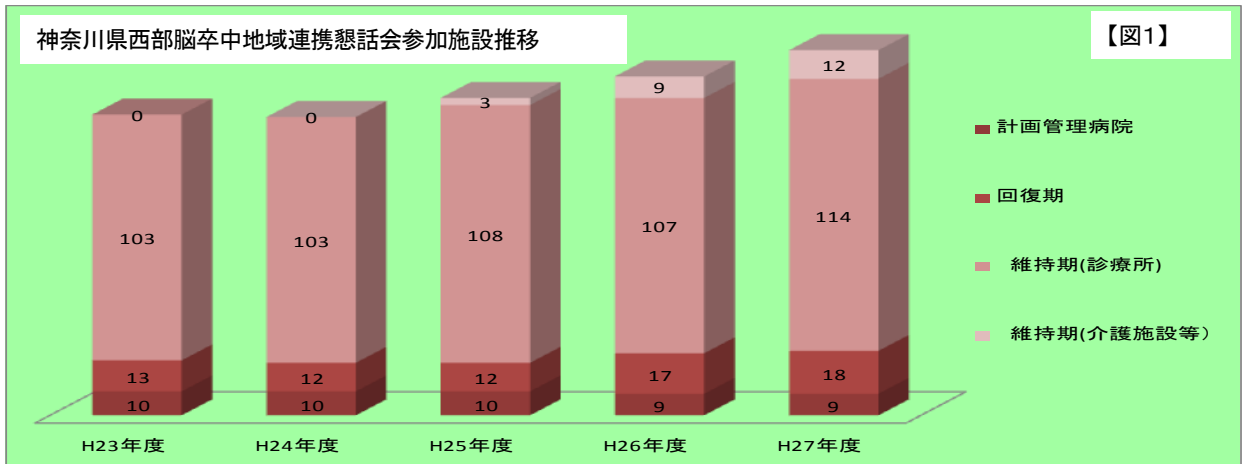
ア パス発行数 73件（H20）→ 318件（H27）

イ パス利用率 7.2%（H20）→ 20.2%（H27）

【参加機関の推移】

【表1】

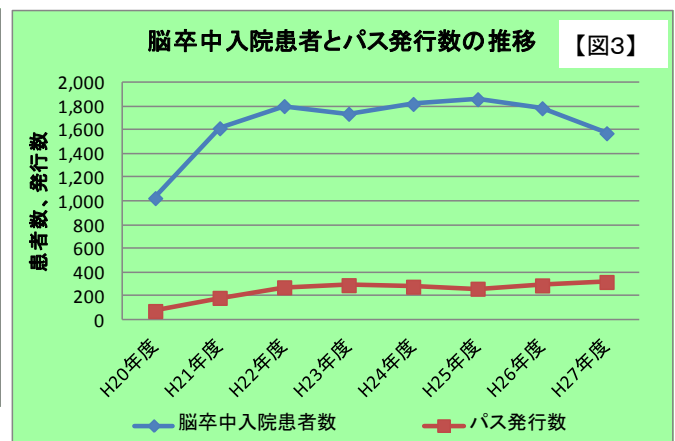
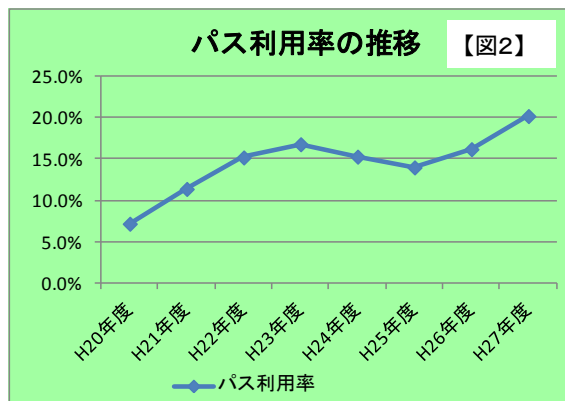
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28. 11
急性期病院(計画管理病院)	10	10	10	9	9	9
回復期機関	13	12	12	17	18	18
維持期機関 計	103	103	111	116	126	126
維持期(診療所)	103	103	108	107	114	114
維持期(介護施設等)	0	0	3	9	12	12
計	126	125	133	142	153	153



【パス発行数、パス利用率の推移（平成20年度～平成27年度）】

【表2】

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
脳卒中入院患者数	1,025	1,614	1,801	1,736	1,819	1,859	1,783	1,572
パス発行数	73	184	273	291	278	261	289	318
パス利用率	7.2%	11.4%	15.2%	16.8%	15.3%	14.0%	16.2%	20.2%



4 これまでの取組みにおける課題の把握と対応状況

(1) 課題把握

毎年実施している計画管理病院及び連携医療機関（回復期）へのアンケート結果や検討委員会及びワーキンググループの委員（医師等）が日ごろの診療等を通して感じている課題認識をまとめると次の事項に集約される。

ア 維持期への連携が進んでいない

- ・かかりつけ医と維持期医療機関の不一致
- ・維持期医療機関・介護施設の参加機関数が少ない
- ・患者（家族）の希望で回復期病院退院後に計画管理病院に戻るケースあり

……患者・家族の不安感によるもの等（身障者手帳を急性期病院で書いてもらいたい、何かあったときの入院先を確保したい）等

イ 事務手続き等の問題点

- ・パス記載にかかる問題（手間がかかる、記載しにくい 等）
- ・診療報酬における問題点（退院調整加算の見直し 等）

(2) 課題への対応状況

ア 維持期への連携を進めるための対応

- (ア) 維持期医療機関等への周知
 - ・医療機関に対しては、医師会との連携により対応
 - ・介護施設に対しては、訪問により周知
- (イ) リーフレットの作成（医療機関等に配布）
- (ウ) 維持期医療機関名簿の作成（現在対応中）
- (エ) 平塚保健福祉事務所ホームページにおける制度の周知

イ 診療報酬の改定

平成28年4月の診療報酬改定により、脳卒中地域連携クリティカルパスを発行した際に加算される「地域連携診療計画管理料」等が廃止され、「退院支援加算1」が新設されたが、新たな制度により、脳卒中地域連携クリティカルパスによる診療に対する診療報酬が実質減となった。

ウ 事務手続き上の問題点への対応

パス様式の改善……記載項目等について整理し、記載しやすく改善した。

5 全県における普及に向けての提案

脳卒中治療は、発病から維持期にいたる間、急性期、回復期、維持期のそれぞれの段階で、患者の状態にもっともふさわしい医療・介護サービスを受ける必要がある。連携を進める上での重要となる点は維持期へのスムーズな連携の実現であり、今後、全県における普及に向けて、次の点を踏まえながら進めることが必要である。

(1) 維持期への連携の推進

ア 維持期機関の担い手を増やす

- ・ネットワークに登録されていない医療機関に対してもパスを回すことが必要。（その際、ネットワークへの加入案内のチラシを添付することが維持期への運用拡大に有効ではないか。）
- ・湘南西部だけでなく、他の医療圏域の医療機関との連携が必要。

イ 維持期医療機関に求める水準の明確化

- ・維持期には専門的な治療ではなく、血圧の管理や糖尿病の予防等の生活習慣の改善等を求めていることを周知すべき。
- ・自宅に帰ってからリハビリを継続したいが、病院に行けないため訪問リハビリを求める患者が多数いる状況への対応。

ウ 維持期機関とのスムーズな連携

- ・維持期医療機関は、患者の状態により、①往診ができる診療所 又は②かかりつけ医であることが必要。
- ・回復期リハ病院とケアマネージャとの連携がスムーズに行われることが重要。

- ・患者の退院前に、地域包括支援センターの職員が入院中の患者とドクターとの話し合いの場に同席することである程度のサービス設定ができる。

エ 患者(家族)、県民への制度の周知等

- ・患者(家族)は、身体障害者手帳の発行への不安、何かあったときの入院のあてを確保したい等の不安感から、回復期病院を退院後、急性期病院に戻る行動をとることが多いため、不安感を払拭することが必要。
- ・制度の周知(リーフレット、ホームページ等)

(2) 事務手続き上の問題点の改善等

ア パス様式の改善

イ パス記入方法の院内での研修等

ウ ICT化の実現

6 まとめ

平成20年から、湘南西部二次保健医療圏をモデル医療圏として取り組んできた「脳卒中地域連携クリティカルパス」の普及事業は、平成22年度には当地域で制定したパスが県のモデルパスに位置づけられるとともに、パスの普及に向けて、これまで、検討委員会及びワーキンググループにおいて出された様々な意見や対応案に基づき取り組んできた。

本県においては、今後、全国を上回るスピードで高齢化が進展することが予測されている中で、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年(平成37年)に向け、あるべき医療提供体制の構築に向けて「神奈川県地域医療構想」を昨年10月末に策定した。

この構想では、高齢化の進展に伴い、医療ニーズが増大する中で、地域の限られた資源を有効に活用し、質の高い医療提供体制を構築するため、将来において不足する病床機能の確保及び急性期から在宅医療・介護まで一連のサービス連携体制の構築が重要であるとしている。また、地域包括ケアシステムの推進に向けた在宅医療の充実に係る取組みとして、医療と介護の連携を進めていくとしており、「脳卒中地域連携クリティカルパス」は、こうした取組みを進めていくうえでの非常に重要なツールの1つであるとともに、当事業の課題の1つであった維持期医療機関への連携の拡大は、地域包括ケアシステムの推進における在宅医療の充実に向けた取組みと軌を一にするものである。

今後は、当地域でのこれまでの取組みから明らかになった成果や課題を踏まえながら、来年度策定される次期保健医療計画に位置づけるなど、全県における急性期から回復期、維持期へのスムーズな連携体制の構築に向けて取り組んでいただくことを期待している。

平成29年3月

湘南西部地区地域連携クリティカルパス検討委員会